

日本英学史学会 中国・四国支部

ニューズレター

No.92

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

<エッセイ>

6語で書く英語

馬 本 勉

アメリカのウェブ雑誌で始まった Six-Word Memoirs という企画が関心を呼んでいる。ヘミングウェイ作ともされる “For sale; baby shoes, never worn.” というわずか6語の短編りにヒントを得て、*SMITH Magazine* は6語で綴る回顧録の投稿を呼びかけた。集まった作品はやがて出版され、今も日々投稿が続く。世界各地の学校で生徒の作品作りも行われている。ネット上に公開されている10代の作品を紹介しよう。“Love Always. Laugh Often. Live Now.” “I’m only living inside my head.” “Have lots to say but can’t...”

私が Six-Word Memoirs に出会ったのは2年ほど前。撮った写真に6語のコメントを付けては楽しんでいる。大雪の朝、真っ白な路面の写真に “Even heavy snow cannot stop me.” とキャプションを付けた。その日はあまりの積雪でスクールバスが運行されず、休講に。そこで次の6語を添えた。“But it sometimes does stop buses.”

新幹線から撮った富士山がモヤで霞んでいる。“You’ve become less of a presence.” 公園を散歩中に出会った赤い薔薇。“I know well you’ve got thorns.” 浮かんだ思いを6語に収めようと言葉を捻る。これが面白い。

Six-Word の簡潔さを英語俳句にたとえる向きもある。歴史を辿れば、俳句は19世紀末以降、様々に英訳され海外の読者に伝えられた。たとえば芭蕉の「古池や蛙飛び込む水の音」は、古い順に次の訳が確認できる²⁾。

Old pond -- / frogs jumping in -- / sound of water. (Hearn, Lafcadio. (1898). *Exotics and Retrospectives*, p.164)

An ancient pond! / With a sound from the water / Of the frog as it plunges in.

(Aston, W. G. (1899). *A History of Japanese Literature*, p.295)

The old pond! / A frog leapt into -- / List, the water sound!

(Noguchi, Yone. (1914). *The Spirit of Japanese Poetry*, p.45)

訳者ごとに異なる解釈からいろいろ学べる。出典の著作はいずれも Internet Archive (<https://archive.org/>) で確認できるが、アストンは haikai, ハーンと野口は hokku と記しており、俳句成立の経緯を思わせる。今では haiku として世界に広がり、日本の教室でも英語俳句を詠む実践が広がりをみせている³⁾。

Six-Word は俳句と同様、省略から伝わる余韻がいい。そしてルールも語数も haiku より少ないため、抵抗なく書ける。省略や文法に気を配れば、英語表現力を高める方法となろう。そう思って昨年、授業の振り返りに Six-word comment を学生に課し始めた。私のコメント返しも全て6語。読むのも書くのも、毎回楽しく続けている。(県立広島大学／日本英学史学会中国・四国支部副支部長・事務局長)

注 1) ヘミングウェイ作というのは信憑性に乏しく、*SMITH Magazine* (<http://www.smithmag.net/>) もこの逸話を“legend”と呼ぶにとどめている。2) これらの英訳は、堀まどか (2006). 「野口米次郎の英国講演における日本詩歌論：俳句、芭蕉、象徴主義」(『日本研究』32, 39-81.) で紹介されている。3) 例えば、中舛俊宏 (2000). 「Content-Based Instruction を通じての試み(13)：英語俳句指導・総合的な学習の可能性」(『教職教育研究』5, 57-63.) では、不得手な生徒の伸びも報告されている。

日本英学史学会 中国・四国支部
平成30年度 総会・第1回(通算78回) 研究例会のご案内

拝啓 新緑の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より当支部の発展のために温かいご支援とご協力をいただき心から感謝申し上げます。

さて、平成30年度支部総会、及び第1回(通算第78回)支部研究例会を下記の要領で開催いたします。今回の研究例会では、研究発表が2件予定されています。お誘いあわせの上ご参集くださいますよう、ご案内申し上げます。末筆ながら、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。 敬具

日本英学史学会 中国・四国支部

日時： 2018年5月26日(土) 13:00 受付開始
会場： サテライトキャンパスひろしま(広島県民文化センター) 504 中講義室(5階) 〒730-0051 広島県広島市中区大手町1-5-3 TEL 082-258-3131
参加費： 会員、非会員とも無料

支部総会(13:20~13:50)

議長選出、前年度活動報告、会計報告、会計監査報告、新年度活動計画、他

開会行事(14:00~14:05) 支部長挨拶

研究発表(14:05~15:15)

「稲垣 巖の「ジョルジュ・サンド考」(原稿)について」

田中 正道(広島大学名誉教授)

小泉八雲・セツ夫妻の次男、稲垣巖は第六高等学校を経て京都帝国大学文学部英文科選科を修了。彼は父八雲が東京帝国大学で行った講義を取りまとめ昭和2年、LECTURES ON SHAKESPEARE というタイトルの書を北星堂から刊行している。巖は英文学だけでなくフランスの女流作家ジョルジュ・サンドの研究にも勤しんでいた。昨年、巖の長男、稲垣明男氏からその清書原稿(400字詰13枚)を頂戴したので概要を紹介する。

資料紹介(15:30~16:40)

「旧制岡山中学の英語教育史資料について」

安部 規子(久留米工業高等専門学校)

岡山県立岡山朝日高校は旧制岡山中学を前身とし、資料館では戦前の教育史資料を多数保存すると共に『岡山県立岡山朝日高等学校の生い立ち、戦前篇』『岡山朝日高等学校史 資料編 I 旧制中学入試』他の刊行物を出版している。今回は、大正初期に同校に在学した生徒の当時の英語試験問題、夏休みの英語の宿題帳、ディクテーションノート、習字帳等を紹介する。
--

閉会行事(16:45~17:00) 副支部長挨拶、写真撮影

懇親会(17:30~19:30)

広島酒呑童子(広島市中区大手町1-4-25 TEL 082-247-9300) 会費 4,000円

研究例会会場への交通案内

(県立広島大学ホームページ「サテライトキャンパスひろしま」より)



サテライトキャンパスひろしま
 (広島県民文化センター 5・6階)
 〒730-0051 広島市中区大手町1丁目5-3
 TEL:082-258-3131 FAX:082-258-3010

●エディオン本館から南へ約100m

●広島県民文化センター 地下駐車場

- ・収容台数 31台
- ・営業時間 7:00~22:00
- ・駐車料金 【7:00~22:00の間】
30分170円
【22:00~翌7:00】
夜間一泊1,050円
(夜間の入出庫はできません)

※ 高さ2.20m×幅2.50m×長さ5.5mまでの車両の駐車が可能です。

※ 広島県民文化センター周辺は一方通行が多くありますので、ご注意ください。

●交通のご案内

【JR広島駅から】

路面電車で約20分、バスで15分、車で15分

○路面電車(広島電鉄)

- ◆広島港行
→「本通り」下車、徒歩約5分
- ◆西広島行、江波行、宮島行
→「紙屋町西」下車、徒歩約3分

【広島バスセンターから】

徒歩 約3分

【広島空港から】

リムジンバス(広島バスセンター行) 約60分

【広島港から】

路面電車で約30分、バスで30分、車で20分

○路面電車(広島電鉄)

- ◆広島駅行き(1号線)
→「本通り」駅下車、徒歩約5分
- ◆西広島行き(3号線)
→「本通り」駅下車、徒歩約5分

○バス

- ◆広島バス21号線 広島駅、向洋大原、洋光台団地行
→「本通り」下車、徒歩5分

【アストラムライン本通り駅から】

徒歩 約5分

中国・四国支部ニュース

≫ 事務局よりお知らせとお願い

①名簿の改訂について

「会員登録確認票」をお届けします。変更のある方は5月23日(水)までにお知らせください。併せて、5月26日(土)に開催される支部総会・研究例会・懇親会の出欠について、ご回答をお願いします。

②会費の納入について

支部総会・研究例会へご出席の方は、平成30年度年会費(一般3,000円、学生2,000円)を受付でお支払いください。その際に『英学史論叢』第21号、今年度の名簿をお渡しする予定です。

ご欠席の方へは、例会終了後、『英学史論叢』名簿とともに、年会費用の振替払込用紙をお送りします。

2年間未納の場合は「自然退会」となりますので、ご理解のほどよろしくお願いたします。

≫ 訃報

風呂 鞏先生(平成30年2月26日ご逝去)
理事として長きにわたりご指導いただきました。謹んでお悔やみ申し上げます。

英学史学会全国ニュース

≫ 『日本英学史学会報』No.145(5月1日発行)

《巻頭言》英学史と仏学史の出会い(楠家重敏)

《英学史散策》

「Massachusetts Agricultural College 学長時代の W. S. Clark : ある学生の回想」(赤石恵一)

「ラフカディオ・ハーンは平家琵琶を聞いていない」
(川瀬健一)

《新刊紹介》

外山滋比古著『日本の英語、英文学』(茂住實男)
ほか

※本部事務局発行の『日本英学史学会報』を閲覧希望の方は、支部事務局までご連絡ください。

≫ 第56回全国大会

平成30年10月20日(土)・21日(日)

大阪府教育会館 たかつガーデン にて開催

※日本英学史学会(全国組織)へ入会を希望される方は、中国・四国支部とは別に手続きが必要です(入会金2,000円、年会費7,000円)。<http://eigakushi.org/app.html>

英学史情報ひろば

◇ 『広島ラフカディオ・ハーンの会々誌』第2号
(平成29年12月1日発行)

《中国・四国支部会員による論考》

「出雲紀行」(五十嵐二郎)

『文化資源』としてのラフカディオ・ハーンを
発信する」(田中正道)

「My Favorite Lafcadio Hearn」(鉄森令子)

『雪女』雑感:「雪女」の見た一つの夢」(風呂 鞏)

◇ 「広島名所」そろった16枚・90年前の写真絵は
がき発見/三原の実家で広島大名譽教授・紙屋町
交差点や広島城(中国新聞2018年2月12日朝刊)

田中正道先生のご実家で、大正末～昭和初頭の
広島の写真絵はがきセットが欠けることのない
状態で発見されたとの記事。ご尊父が尋常高等
小学校の修学旅行の記念に県立商品陳列所(現
在の原爆ドーム)で購入されたとのこと。

◇ 日本英語教育史学会第34回全国大会

平成30年5月19日(土)・20日(日)

サテライトキャンパスひろしま(広島市中区)

《記念講演》「私の英語教育史:研究と教育と」

(竹中 龍範)

《特別企画》「鼎談:広島の英語教育を語る」

(小篠 敏明・田中 正道・三浦 省五)

《中国・四国支部会員による研究発表》

「広島における英語基本語の史的検討」(馬本 勉)

「京城帝国大学予科入学試験問題(英語)瞥見」

(田中 正道)

日本英語教育史学会ウェブサイト <http://hiset.jp/>

広島英学史の周辺(58) 広島地理教育研究会(編)『ひろ
しま地歴ウォーク』(2018)には、カーブ、ドーム、宮島な
ど、広島情報が満載。随所に「英学の気」も感じられます。

▼5月26日の支部総会・例会でお会いしましょう。(馬)

日本英学史学会中国・四国支部ニューズレター No.92

2018年5月8日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 竹中 龍範)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: 0824-74-1725(研究室直通)

e-mail: eigaku@tom.edisc.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部

Newsletter No.92 May 8, 2018